

○事業所名	発達支援室kodomo本郷台（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員に有資格者（言語聴覚士、作業療法士、心理士、教員免許、栄養士、保育士、児童指導員等）が多く、専門的な支援が充実している。	専門職が保護者面談に同席したり、支援計画の作成に参加している。 保護者の困りごとに対応できる専門分野の職員と連携し、支援内容を検討している。	専門職の知見を活かして、日々のカリキュラムをさらに充実させる。
2	一人一人に寄り添った支援を心がけているため、長く利用してくださる児童や通所を楽しみにして下さる児童が多い。	保護者の方と、日々の送迎時に児童の情報共有をこまめに行い、面談時には丁寧な聞き取りを心がけている。 日々のミーティングにおいて、職員間で児童に関する情報共有をこまめに行い、児童のニーズを全体で把握している。 内部研修や外部研修に積極的に参加し、職員のスキルアップを心がけている。	保護者だけでなく、児童本人の意思をくみ取り、支援に反映させていけるよう、意思決定支援に力を入れていく。
3	保護者同士の交流の機会が充実している。	保護者同士のつながり作りのために、座談会や保護者会等、保護者同士の交流の機会を積極的に作っている。	保護者のニーズを確認しながら、新しい企画も検討していく。
4	施設が、構造上、部屋数が多く、敷地内に庭がある。	用途によって部屋を使い分け、多様な活動を可能にしたり、離れてクールダウンができるようにしている。また、お庭では、畑作業を行い、自然に親しむ機会を提供している。	より安全に活動ができるように、環境整備をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物構造上、階段が多く、通所の際、階段の上り下りが生じてしまう。敷地内に死角や注意が必要な場所がある（安全性の確保の課題）。 教室がワンフロアではないため、全体を見通しづらく、教室全体の様子を把握しづらい。 教室内に整理整頓が行き届いていない部分がある。	建物の構造上、階段なしでは利用できない。 部屋が複数あり、曲がり角もあるため、教室全体の構造がわかりづらくなっている。 幅広い年齢の児童を受け入れているため、備品や教材が多く、収納スペースを圧迫している。 消防署と連携し、非常時の避難についてアドバイスをもらうなど、安全対策に力を入れている。	階段にはすべり止めテープを貼ったり、雨の日には階段にすべり止めマットを敷くなど、安全面に配慮している。 階段を降りる際には、児童の年齢や障害特性に応じて、職員がマンツーマンで付き添うなどし、安全に配慮している。 立ち入り禁止のスペースには、危険表示テープを貼ったり、立ち入り禁止のバーを設置して、わかりやすくしている。 職員を多めに配置することで、教室内で目が行き届くようにしている。 定期的に備品や教材の整理を行い、不要な物は処分するようにしている。 保護者に安全計画を配布し、安全対策の取り組みを共有する。
2	保育所や認定こども園との交流、幼稚園との交流や、その他地域で他の子どもと一緒に活動する機会があまりない。	並行通園の児童が多く、保護者のニーズがあまりない。	保護者から要望があれば、検討していく。
4	ブログの更新の頻度が少ない。 活動の様子や自己評価の結果等がホームページで発信されていることが周知されていない。	すでに発信されている情報の周知の機会が少ない。 業務がひっ迫し、ブログ更新の時間を確保しにくい。	発信されている情報の周知の機会を増やす。 業務分担を見直し、ブログ更新の時間を確保できるよう効率化を進める。